

2020. 12. 13 (日) イザヤ9:6~7

9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

<説教>

イザヤ（「主の救い」という意味）は紀元前8世紀中頃から7世紀初めにかけて南ユダ王国で活動した預言者です。

〈アモツの子イザヤの幻。これは彼がユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。〉（イザヤ 1:1）とイザヤ書は始まりません。

先月にはⅡ歴代誌の中から、ヒゼキヤ王の宗教改革に伴って十分の一献金が復活したことを学びましたが、このヒゼキヤ王に非常に大きな影響（もちろん良い影響です）を与えたのもイザヤでした。

ヒゼキヤの時代は非常に困難な暗黒の時代だったとそのⅡ歴代誌の学びのときに言いました。

兄弟国北イスラエル王国は主なる神に聞き従わず反逆を続け、神のさばきによってアッシリア帝国に滅ぼされるのですが、南ユダ王国もまた〈彼らの神、主の命令を守らず、イスラエルが取り入れた風習に従って歩んだ〉（Ⅱ列王 17:19）のでした。

それはヒゼキヤ王の前からそうでした。

イザヤが関わった王を見るなら、ウジヤは始めは神に従って国は繁栄しましたが、後に高慢になり、神のさばきを受けてツァラアトに犯されてしまいました。

ウジヤの子、ヨタム王は〈主の目にかなうことを行った。…〉が〈民は依然として滅びに向かっていた〉（Ⅱ歴代 27:2）と書かれています。

ヨタムの子、アハズ王に至っては、〈その父祖ダビデとは違って、主の目にかなうことを行わず、イスラエルの王たちの道に歩み、そのうえ、バアルの神々のために鑄物の像を造った。彼は、ベン・ヒノムの谷で犠牲を供え、主がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の、忌み嫌うべき慣わしをまねて、自分の子どもたちに火の中を通らせた。彼は高き所、丘の上、青々と茂るあらゆる木の下で、いけにえを献げ、犠牲を供えた。〉

（Ⅱ歴代 28:1-4）という体たらくでした。

それで南ユダ王国にもアッシリア帝国が迫り、やがては北イスラエル王国のような神のさばき、滅びが迫っていたのです。

そんな状況で、ただ一の大事、必要なことは、もう一度神に信頼して、神に聞き従い、神に立ち返ることでした。

つまり、〈民は自分の神に尋ねるべき〉（イザヤ 8:19）であり、〈ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない〉（8:20）のでした。

そうでなければ〈その人に夜明けはない〉(同) のでした。

にもかかわらず、王も民衆もそうしようとしていませんでした。

それでそこに見えたのは〈苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者〉(8:22) でした。

しかし、そんな目に見るところ出口のない真っ暗闇、救われようがない絶望の闇の中で、〈苦しみのあったところに闇がなくなる。…闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。〉(9:1-2) と神はイザヤに啓示してくださいました。

それは、〈あなたはその国民を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは…あなたの御前で喜ぶ。あなたが…打ち砕かれる。…火の餌食となる。〉(9:3-5) とイザヤが言うように、人間の力にはよらず、主なる神の一方的な恵みにより、みわざによるのだと神は言われました。

〈あなた〉とイザヤが言う主なる神が、〈闇の中を歩んでいた民〉に〈大きな光〉を見せてくださり、〈死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く〉ようにしてくださると言われたのです。

神の民にこれ以上無い最大の喜びを与え、神の民の強敵を打ち破って神の民を救い、完全な平和をもたらしてくださると言われたのです。

ではどうやって、誰によってそれをなさると言うのでしょうか。

〈大きな光〉とは何、誰なのでしょう。

それが〈ひとりのみどりご〉、〈ひとりの男の子〉であるイエス・キリストです。

イエス・キリストこそは、神の民を滅ぼそうとする敵に打ち勝ち、完全な平和を実現してくださる唯〈ひとりの〉お方です。

イエス・キリストこそは、人間の力にはよらず、主なる神の一方的な恵みにより、みわざによって〈私たち〉に神が与えてくださった唯〈ひとりの〉お方なのです。

9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

〈ひとりのみどりごが生まれる〉のは〈私たちのため〉であり、〈ひとりの男の子が与えられる〉のは〈私たちに〉対してだとイザヤは言います。

〈私たち〉とは神に反逆し、神に聞き従わないで、神のさばき、滅びに向かって〈闇の中を歩んでいた民〉、〈死の陰の地に住んでいた者たち〉(2) のことです。

そして、もはやイザヤの時代、南ユダ王国といった時間空間を超えて、2800 年近く後の現代の〈私たち〉のことでもあります。

最初の人アダムの時からイザヤの時代、そして現代を経て最終審判の日に至るまでのすべての〈私たち〉罪人に神が与えてくださった〈大きな光〉が〈ひとりのみどりご〉〈ひとりの男の子〉としてお生まれになったイエス・キリストです。

〈みどりご〉は人の目には全く無力で弱く見えますが、実はすべての〈主権〉即ち最高・独立・絶対の権力、統治権を〈その肩〉に担っておられる、全世界・全宇宙の統治者、支配者、王なのです。

〈その主権は増し加わり〉(7)こそすれ、小さくなったり消えて無くなることは決してありません。

〈ひとりのみどりご〉の〈その名〉即ち実体はどういうお方なのでしょう。

〈不思議な〉即ち「奇しい」「奇跡の」「驚くべき」神のわざを行い、神のみことばを〈私たち〉に教え、助けてくださる〈助言者〉です。

そしてご自身は何の〈助言者〉も必要としない、〈力ある神〉ご自身であります。

〈私たち〉を限りなく愛しあわれみ、慈しみ、決して見捨てず、保護者として働いてくださる〈永遠の父〉です。

そして〈私たち〉のうちにまず神との和解・〈平和〉(シャーローム)をもたらし、人との和解・〈平和〉をももたらし、神を愛し人を愛する〈平和〉を打ち立ててくださる〈君〉(かしら、監督、指導者、支配者)なのです。

〈その平和〉も〈限りなく〉いつまでも続きこそすれ、消えて無くなることは決してありません。

さらに〈ひとりのみどりご〉イエス・キリストのお働きが示されます。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

〈ひとりのみどりご〉は神の民の王として〈ダビデの王座に就いて、その王国を治め〉ます。

北イスラエル王国はまさに悪い王の支配によって滅びようとしていましたし、南ユダ王国もやはり滅びに向かっていました。

どちらも結局は王が〈さばきと正義〉によって、即ち律法(に示された神の御意思)に従って正しく国を統治しなかったからです。

神に聞き従わず、自分の罪に、欲望に、利権に、損得に従い、偶像に頼り、金や暴力に頼って民を治めようとしたからです。

しかし〈ひとりのみどりご〉は神のみこころと完全に一致し、ますます神のみこころを行い、神の支配をご自分の王国でますます行って〈その王国〉を〈限りなく〉〈堅く立て〉〈支える〉のです。

このように今現在、目に見えるところ〈闇の中〉〈死の陰の地〉にあり、罪の故に神のさばきを受け滅びに向かってる地上の王国の中にいたイザヤに対して神は〈今よりとこしえまで〉〈堅く立〉ち続ける〈ひとりのみどりご〉の〈王国〉をお示しになりました。

全く希望の見えない〈今〉なのに、そしてまだ実際に〈ひとりのみどりご〉は生まれていないのに、〈今より〉と言われたのです。

それは〈ひとりのみどりご〉の〈王国〉とその〈主権〉・統治は〈とこしえ〉の、つまり時空間の制限を受けず、時空間を超えているからです。

最初の人アダムから最後の審判の日に至るまで、罪赦され救われる人はすべて〈ひとりのみどりご〉イエス・キリストの時空間を超えて有効な贖いの功績の故に救われるのです。

〈私たちのために生まれ〉た(または生まれる)〈ひとりのみどりご〉イエス・キリス

トを信じ、〈ひとりの男の子（息子）〉を〈私たちに与え〉てくださった（またはくださる）神を信じる信仰によって救われるのです。

そういう〈不思議な〉驚くべき〈ひとりのみどりご〉が時満ちてこの地上に〈私たちのために生まれる〉〈私たちに与えられる〉ことを確実なご自分の御意思、ご計画として神はイザヤにお示しになったのです。

ですから、始めから終わりまで、万事を〈万軍の主の熱心がこれを成し遂げる〉と言うのです。

ただおひとり〈万軍の主〉なる神がこれを意思なさり、計画なさり、ご自分のひとり子イエス・キリストを〈ひとりのみどりご〉として〈私たちのために〉この世にお遣わしになります（なりました）。

人も悪魔も、誰もこの最強の力を持っておられる〈万軍の主〉なる神の御意思とみわざを止めることはできません。

人や悪魔が悪意をもって神のみわざを邪魔しようとしても、それさえも神はご自分の善きご計画の実現のためにお用いになり、ご自分の善き御意思を〈熱心〉をもって〈成し遂げる〉のです。

〈熱心〉とは「ねたみ」です。ねたむほどの燃えるような熱意、愛です。

神に逆らってばかりいる限りなく罪深い〈私たち〉をねたむほどに激しく愛して下さる神が〈ひとりのみどりご〉イエス・キリストによって〈私たち〉を悪魔と罪の支配から解放して下さり、〈ひとりのみどりご〉の王国、イエス・キリストの御支配に移し入れてくださいます。

それは〈万軍の主〉なる神が、その力で〈私たち〉のうちに始め、実現し、完成させて下さることです。

ですから、それは確実です。

私たちは主なる神に、御子イエス・キリストに全く信頼して、お委ねするのです。

これが今日、〈私たち〉が聞く、アドヴェントのメッセージです。